2009年6月号　vol.200

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

心に残る広報誌を
目指します。

特集　広報誌第200号発行に際して

03 最近の主な出来事
＜兵庫医科大学＞
04 学長メッセージ
05 兵庫医科大学入学式
08 第103回医師国家試験について
09 大学院入学式／学位授与
11 白衣授与式／薬物乱用防止に係る特別講義／本学初の特許登録
12 平成21年度科学研究費補助金等交付決定
15 中西主任教授研究発表
＜兵庫医科大学病院＞
16 病院長メッセージ
17 IBDセンター開設／人間ドック利用費用補助事業
18 認知症疾患医療センターについて／第1回兵庫医科大学病院病薬連携セミナー
＜篠山病院＞
19 ささやま老人保健施設紹介／職場紹介
＜兵庫医療大学＞
22 薬学部　学部長メッセージ
23 兵庫医療大学入学式
26 平成21年度科学研究費補助金交付決定
27 教授就任挨拶
28 防災・減災及びボランティア活動に関する5大学連携支援協定締結
29 キャリアデザインセンター開設／キャリアデザインセンター長就任挨拶
＜学校法人兵庫医科大学＞
30 理事・評議員の異動
31 平成20年度決算
34 規程等の制定・改正
35 平成21年度予算
36 平成21年度の主な取り組み
37 学校法人兵庫医科大学基金設立
38 兵庫医療大学のための募金状況報告/寄贈車椅子披露式
39 卒業生紹介
池添 逸夫さん（兵庫医科大学第1期生）
山本 一成さん（兵庫医科大学第4期生）
40 職場紹介
兵庫医科大学病院　臨床工学室
兵庫医科大学病院　看護部　ICU病棟
兵庫医療大学　リハビリテーション学部　理学療法学科
43 Join us! ー課外活動紹介ー
兵庫医療大学　陶芸サークル・Huhsバレーサークル

広報誌第２００号発行に際して

本広報誌は平成21年6月号で通巻200号の発行となりました。
昭和48年4月の創刊から約35年間に亘り、さまざまな情報を掲載してきました。
これからも充実した広報誌を目指していきます。

創刊から現在に至るまで

昭和48年4月10日に本学初の広報誌が創刊されました。以降、年に6回発行され、特別号や別冊などが発行されることもありました。（平成7年から年4回発行）発行を重ねるごとに少しずつ変化を遂げて参りましたが、平成20年4月号で装丁、掲載内容を含め大きくリニューアルを行いました。再び年6回の発行となり、毎号“ 旬 ”な情報掲載に取り組んでいます。

現在、広報誌は「組織と個人を繋ぐ」「経営層（トップ）の意思を伝達する」「学生・教職員のモチベーションアップを図る」ためのツールとして、4月、6月、8月、10月、1月（新年号）、2月に発行し、教職員・在学生（兵庫医科大学・兵庫医療大学）・保護者・卒業生・寄付申込者・他大学・マスコミ等に配布しています。また、看護師・助産師募集や、入試説明会などでも配布しています。

創刊号（昭和48年 ）～

135･136号合併号（平成7年）～

155号（平成11年）～

164号（平成13年）～

193号（平成20年）～

昭和48年4月10日創刊号

創刊にあたって

理事長　森　村　茂　樹

いよいよ広報が発行されることになってやれやれという気持である。創刊への協力を惜しまれなかった皆さんに、まずお礼を申しあげたい。

本学が他にくらべて一番劣っていることの第一はＰＲの欠除である。元来「医」という業は、自らを宣伝・広告して人を集めるものではなく、その声望を聞いて自発的に人々が集まってくるものだ、というのが私の理想であった。そのためか、前々から宣伝・広告が下手な伝統が、この兵庫医科大学の基礎体質の中にあったのかも知れない。

しかし、これも程度問題であって、一般の人々に、ここにはこういうものがある。ここはこんな利用の仕方があるのだ、ということを知らせるのも親切な行き方だと思う。

また、学内の教職員・学生の諸君にも、理事会の決定を一々口頭報告するわけにもゆかないから、その方針や、新らしい計画、時には実現できないことも含まれるかも知れないが、予定された事業計画などを、この広報紙で知っていただき、自分の働き場、勉強場のあり方、将来像を呑み込んで方針をたて、時には意見具申も期待したいものだと思う。

「兵庫医科大学誌」が学問的な立場のものであり、本紙がわかりやすい大学像を表現するカンパスであるように成長してもらいたいものだ。学生諸君のクラブ活動の成果も時に及んで掲載してもらいたい。

広報誌は大学・病院における情報共有だけに留まらず、それぞれが持つ“強み”を対外的にアピールしていきます。

■トップメッセージ

法人、大学、病院それぞれのビジョンを継続的に発信します。

時には、学長と学生の座談会を企画して、ダイレクトにメッセージを発信することも。

■特集

座談会や取材を通して様々なテーマを取り上げ、情報の理解を深めその共有を促します。
また、大学・病院の積極的な取り組みをアピールしていきます。

■職場紹介

職場で活躍する姿を紹介します。どんな業務に携わっているか、どのような取り組みをしているか、その役割と、働く人の思いや志を伝えます。

■最近の主な出来事

2カ月毎の大学・病院内の主な動きを共有します。

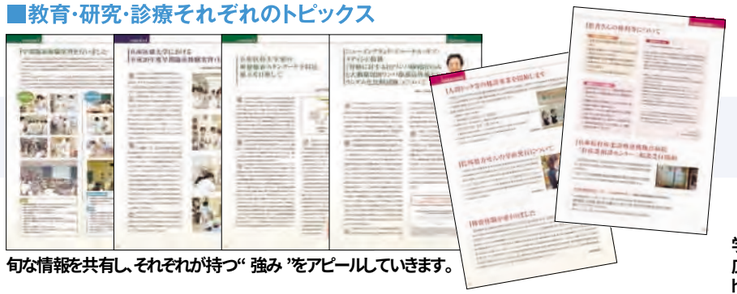
■クラブ・サークル紹介

課外活動での元気な姿を教職員・保護者に見ていただきます。

■卒業生紹介

卒業生の活躍を紹介します。具体的な将来像を知ることで在学生のモチベーションアップに。

■教育･研究･診療それぞれのトピックス


旬な情報を共有し、それぞれが持つ“ 強み ”をアピールしていきます。

学校法人兵庫医科大学ホームページで
広報誌や病院NEWSをご覧になることができます
http://www.corp.hyo-med.ac.jp/guide/activity/public/

最近の主な出来事

4月 APRIL

1	学校法人兵庫医科大学	平成21年度入職式	平成記念会館において、平成21年度入職式とオリエンテーションが行われました。
	兵庫医科大学病院	臨床研修医オリエンテーション（1日～4日）	臨床研修医58名、研修歯科医3名が参加し、当院の臨床研修制度や臨床研修医の心得、医の倫理、医療安全管理、感染制御、接遇、診療録の取り扱いなどの理解を深め、施設見学などを行いました。
	兵庫医科大学病院	看護師オリエンテーション（2日～7日）	看護師・助産師136名が参加しました。当院の看護業務や、医療安全管理、病院感染制御、接遇などの理解を深め、医療機器取り扱い方、手洗い・採血、車椅子操作・体位変換などの実習を行いました。
2	兵庫医科大学	大学院入学式	→P9をご覧ください。
3	兵庫医科大学	医学部入学式／保護者説明会	→P5をご覧ください。
4	兵庫医科大学	白衣授与式	→P11をご覧ください。
5	兵庫医療大学	入学式／保護者説明会	→P23をご覧ください。
6	篠山病院	地鎮祭	→広報199号P21をご覧ください。
	兵庫医科大学	コロンビア大学短期留学	6年生2名が約4週間コロンビア大学に短期留学し、病棟実習を行いました。詳細は201号（8月）で掲載します。
15	兵庫医科大学	大学院学位授与式	→P9をご覧ください。
	兵庫医科大学病院	市民健康講座	第3会議室において外科 （下部消化管外科）冨田 尚裕主任教授が「大腸癌の話」をテーマに講演を行いました。
	兵庫医療大学	寄贈車椅子披露式	→P38をご覧ください。
17	兵庫医科大学	新入生学外オリエンテーション(17日、18日)	→P5をご覧ください。
18	兵庫医科大学病院	第1回兵庫医科大学病院病薬連携セミナー	→P18をご覧ください。
28	篠山病院	篠山物産展 主催:有限会社クリエイトささやま 協賛:篠山市、兵庫医科大学	午前11時から1号館1階西側において開催され、黒豆パン、黒豆茶など丹波篠山で人気の特産物が並び、盛況な売れ行きとなりました。

平成21年度入職式

臨床研修医オリエンテーション

看護師オリエンテーション

市民健康講座

篠山物産展

5月 MAY

2	兵庫医科大学	薬物乱用防止に係る特別講義	→P11をご覧ください。
11	学校法人兵庫医科大学	学校法人兵庫医科大学基金に係る説明会	→P38をご覧ください。
12	兵庫医科大学病院	看護の日記念行事	10-9病棟において、「ふれあい看護体験」が行われ、臨床心理士を目指す大学4年生1名が参加しました。アドバイスを受けながら環境整備や移送などを体験し、「とても勉強になり、あっという間に時間が過ぎていきます」と充実した様子でした。
	兵庫医科大学病院	第10回クリニカルパス大会	3-1講義室において下記のテーマで発表・講演があり、活発な意見交換が行われました。 「消化器内科 大腸ポリープ切除術パス、レミケード1泊2日コースパス」 内科 下部消化管科 福永 健助教 10-9病棟 小倉 由美子看護師長、吉田 智子看護主任、久保薗 梨乃看護師 内科 冠疾患科 舛谷 元丸講師
13	兵庫医科大学病院	市民健康講座	第3会議室において内科 冠疾患科 高橋 敬子講師が「運動は心臓病の救世主～正しい運動を続けることで心臓はよくなります～」をテーマに講演を行いました。
27	兵庫医科大学病院	大学病院IT化戦略に関する医療講演会	9-1講義室において、「生き残りのための大学病院IT戦略」の演題で愛媛大学大学院医学研究科 医学専攻 生命環境情報解析部門 医療環境情報解析学講座 医療情報学分野 石原 謙教授にご講演いただきました。

看護の日記念行事

第10回クリニカルパス大会

市民健康講座

大学病院IT化戦略に関する医療講演会

学長メッセージ

第103回 医師国家試験結果を称えて

学　長｜波田　壽一

今年2月に実施された第103回医師国家試験に本学の新卒業生104名全員が合格いたしました。このことは全国医科大学、医学部80大学中第1位であり、本学開学以来の慶事でありまして心より新卒業生の健闘を称えたいと思います。また、既卒業生15名中11名（73.3%）が合格しましたので、新旧合わせても119名中115名（96.6%）が合格したことになり、29私立医科大学中5位、全国医科大学、医学部80校中第10位であります。

このような成績を出すことが出来ましたのは、まず卒業生諸君の努力の賜物でありますが、同時に本学教職員のご尽力のお蔭でもあります。既卒業生を含めて卒業生諸君と教職員の皆さんに感謝いたします。中でも医学教育センターの教職員の方々、教務委員会委員の先生方、客員教授の塩澤先生、学務部の職員の方々のご努力によるところは大きく、これらの方々には特に厚くお礼を申し上げます。国試に合格された諸君は国試に合格することが最終目標ではありません。患者さんに信頼される良い医師になることが最終目標ですので、これからは謙虚になって精進され医師として立派に成長されることを願っております。

私は学長就任の時に教授会の先生方に本学の新卒業生の医師国家試験の合格目標を95%にし、それに向かって協力していただきたい旨のお願いを致しました。それと平行して医学教育センターの設置（平成16年度）、成績優秀者賞新設（平成17年度）、授業の同僚評価制度の導入（平成18年度から）、再入学制度の廃止（平成18年度入学生から）、4大学相互選択臨床実習の導入（平成18年度）、英語力強化のためのTOEIC導入（平成18年度）、5年生の総合進級試験の導入（平成19年度）、定期試験の合格基準の変更（平成19年度から）、3年生の基礎医学教室への配属（平成20年度）、適正な試験のあり方の提案（1/3ルールの策定）（平成20年度）、などの改革を行ってまいりました。これらの改革・改善がどの程度国家試験の合格に寄与したかは今後の検証が必要でありますが、今後とも学生の教育環境の整備・充実と教育力の強化に力を入れてまいりたいと思います。

「勝って兜の緒を締めよ」と言います。今回の成績を単年度のみで終わらせることなく、引き続き今年度と同様の成績を目指して一層の努力をしてまいりますので、教職員の皆さんには宜しくお力添えを頂きますようお願い致します。

平成21年度 兵庫医科大学 入学式

平成21年4月3日（金）平成記念会館において、平成21年度兵庫医科大学入学式が執り行われ、112名の新入生が入学しました。同日午後から4日にかけて新入生学内オリエンテーションを行い、7日（月）から授業を開始しました。

新入生代表「入学宣誓」
今中 智子さん

新入生インタビュー

「チュートリアル教育で認知症患者さんの症例についての課題に取り組みました。いよいよ医師への道の第一歩を踏み出したのだ、と実感。毎日が充実しています。」（今中（いまなか） 智子（ともこ）さん）

「カリキュラムについていけるか少し不安でしたが、先生方が親身に導いてくださり、先輩や友達も優しくて安心しました。バトミントン部に入部し課外活動も楽しんでいます。」（奥田（おくだ） 有香（ゆうか）さん）

二人とも「普段は気さくな先輩たちが白衣姿になると、また違って見えてかっこいいです。」と、先輩たちの背中もしっかりと見ているようです。

（平成21年5月12日取材）

今中さん（左）と奥田さん（右）

関西学院大学との連携講座（4月9日～）

昨年度に続き、兵庫医科大学と関西学院大学（以下、関学）の連携講座が開始しました。両大学の学術交流に関する包括協定（平成19年7月締結）に基づく「学生及び教員の相互交流、授業科目の相互提供」の一環で、7月までの毎週木曜日、関西学院大学の西宮キャンパスで関学生と一緒に人文・社会系科目の授業を受けます。これにより幅広い教養を身につけた医療人の育成を目指します。関学生が兵庫医科大学で講義・実習を受ける夏季・冬季集中講座もあります。

本学学生にとっては、大きなキャンパスで大勢の学生と一緒に受講することは新鮮で、気分転換にもなっているようです。

保護者説明会（4月3日）

入学式の後、保護者の方々にノボテル甲子園に移動いただき、保護者説明会を行いました。医学部の教育制度について（野口教務部長）、保護者へのお願いについて（越久学生部長）、医学教育センターについて（鈴木センター長）などの説明に、ご参加いただいた134名の保護者の方々は熱心に耳を傾けておられました。

学内オリエンテーション：心肺蘇生法実習（4月11日）

平成記念会館において、心肺蘇生についての説明や講義を受けた後、2階アリーナでグループ毎にシミュレーターやCPR&AEDパーソナルトレーニングキットを使用して実習を行いました。

学生の中には高校や自動車教習所等で心肺蘇生の実習を受けたことがある学生もいましたが、AED（自動体外式除細動器）を使用するのは初めて、という学生も多く、指導を受けながら約2時間、熱心に取り組みました。先生方は「医学生・医療従事者として、率先して救護に関わる勇気を持ってほしい」「良質な心肺蘇生を行うために繰り返し練習することが大切」と学生に話されました。

シミュレーター

AEDを使用しての練習

学外オリエンテーション合宿（4月17日～18日）

1泊2日のオリエンテーション合宿が三洋電機研修センター（神戸市垂水区）で行われました。医学教育について、講義の受け方、先輩からのアドバイスなど、大学生活を送る上で必要な内容が盛り込まれ、学生たちは熱心に耳を傾けていました。チュートリアルではグループ毎に課題に対して自ら問題点を見つけ、討論を重ねて解決に導き、その後、全員の前で発表しました。質疑応答も活発に行われ、この2日間を通して、学生同士の親交も深まりました。

チュートリアル

他己紹介

式　辞

学長　波田　壽一

112名の新入生諸君、ご入学おめでとう。今まさに桜の花が満開を迎えようとしている今日の佳き日に、ここに平成21年度兵庫医科大学第38回入学式を挙行出来ますことは本学教職員にとりまして大きな喜びであり、関係各位に厚くお礼を申し上げます。また、本日はご多用のところ関西学院大学杉原　左右一（すぎはら　そういち）学長を始め、多数のご来賓、保護者の皆様にもご臨席をいただき深甚なるお礼を申し上げます。諸君の長年の努力が実り本学に入学されましたことを、本学を代表してお祝いと歓迎の意を表したいと思います。また、保護者の皆様にも心からお喜びを申し上げます。

本学は故森村茂樹先生により昭和47年4月に開学致しました。以来37年、「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」を建学の精神として、全人的医療を担える良医の育成を目指してまいりました。現在までに3284名の卒業生を輩出し、教職員と卒業生の皆さんの日夜の努力で本学は日本全国のみならず海外からも高い評価を頂いております。今年は、医師国家試験で本学の新卒業生104名が全員合格し、100%の合格率でしたので教育面でも高い評価がこれに加わるものと思います。今後とも更なる飛躍、発展を目指して努力していく所存であります。

本学の教育には他の医科大学（又は医学部）では見られない大きな2つの特色があります。第一は、学校法人兵庫医科大学は平成19年4月に神戸ポートアイランドの地に「兵庫医療大学」を開設いたしました。薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部からなり、医師以外の医療を担う人材を育成するために作られた大学でありますが、諸君は本学在学中に兵庫医療大学の学生と実習などを一緒に行い、チーム医療を担う基礎を勉強していただきます。現在の医療は医師だけで担うことは出来ません。コメディカルと呼ばれる人達とのチーム医療を通して良い医療の実践が出来るのであります。諸君は在学中からチーム医療に必要な考え方、他の医療者とのコミュニケーションの仕方などを学べるということです。第二は、本学は平成19年7月に関西学院大学と学術交流協定を締結し、互いに教育、研究面で協力しあうことにいたしました。この協定に則り、諸君はこの4月から約6ヶ月間、週に一日、同じ西宮市にある関西学院大学（以下、関学）で英語を除く人文社会系科目を勉強していただきます。これは医学部以外の学生がどのようなことを考え、人生の目標をどのようなところにおいているか、どのように生きようとしているか、などを互いの交流を通して知ってもらい、知識や考え方の幅を広くして、より教養豊かな人に育ってほしいと言う願いから行っています。逆に関学の学生さんが本学に来られて実習に参加したり、講義を聴講されたり、また本学の教授が関学に出向いて講義をするプログラムもあります。是非諸君は関学での授業や、学生との交流を通して学生生活を豊かなものにしていただきたいと思います。この2つの特色は他の医科大学では経験出来ない貴重なものであり、諸君の勉学の中で大いに生かしていただきたいと思います。

現在日本は少子化を迎え、大学も全入時代になってきたと言われておりますが、一方では大学生の学力低下が懸念されております。最近では、大学生には卒業時に質の保証された「学士力」が身についていることが求められております。大学を卒業するときには「学士」という学位が与えられますが、どのような能力を身に付けているかが問われているということです。中央教育審議会は昨年（平成20年）12月に「学士課程教育の構築に向けて」と題する答申を行っていますが、この中で各専攻分野を通じて培う「学士力」として、4つのカテゴリーに分けて13項目について記してあります。その中で諸君に是非身に付けておいて欲しいものを8つ申します。第①に、コミュニケーション・スキル：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。②論理的思考力：情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。③問題解決力：問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。④情報リテラシー：ICT（情報通信技術）を用いて、多様な情報を収集・分析して適性に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。⑤統合的な学習経験と創造的思考力：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を有すること。⑥チームワーク、リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。⑦倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。⑧生涯学習力：卒業後も自律・自立して学習できる。などを大学卒業時には身に付けていることが求められています。これらは主として教養教育の中で身に付けるものですが、この上に医科大学では医学を学ばなければなりません。従って諸君には遊んでいる時間はありません。私どもが医学生だった頃に比べて、学ぶべき内容は倍以上になっていますが、医学部の在学期間は6年間でこれは私どもの時代と変わりません。全てを諸君に教えることは出来ません。現在、日本の医科大学（医学部）では教えるべき内容の基準が「モデル・コア・カリキュラム」として提示されていて、これに準じて教育がなされています。そして4年生の終わりに全国共用試験が全国の医学生の4年生に対して行われ、これに合格しないと5年生に進級出来ませんし、臨床実習も出来ません。このように大変厳しい現実があることを早くから自覚し、自学自習の習慣を身に付けていただきたいと思います。

諸君は今は意気揚々として、未来は永遠にあると言う気持ちだと思います。しかし未来は有限であります。陶淵明（とう　えんめい）という中国の詩人の詩に「盛年重ねて来たらず一日再び晨（あした）なり難し時に及んで當（まさに）に勉励すべし歳月は人を待たず」というのがあります。口語訳をすると「若い元気な年は再び来ないし、一日のうちの朝は二度と来ない。それ故、学ぶべき時に良く務め励んで充分勉強しておかなければならない。歳月は人を待つものではないからいつの間にか過ぎ去ってしまう。」という意味です。諸君にとってはこれからが「時に及んで當に勉励すべし」の時期です。充分勉強していただきたいと思います。諸君の生涯においては今日という日が最も若く、明日は今日より年をとりますし、あさっては更に年をとります。一日一日を大切にして有意義な毎日にしていただきたいと思います。人生においては「良き師、良き友、良き本」との出会いがその人の人生を変えると言われています。本学にはすばらしい先生方が沢山おられます。是非、先生方と親しく交わって先生方から知識と知恵を学んでいただきたいと思いますし、また、これから良い友達を見つけていただくことを願っております。既に良い友達のいる方はその友達を大切にして欲しいと思います。自分が困難に遭った時に友達はきっと諸君の役に立ってくれると思います。また、医学書は勿論ですが、色々な本を読んで考え方、生き方を勉強していただきたいと思います。読書はきっと諸君の人生を稔り豊かなものにしてくれるはずであります。

最後に諸君には、兵庫医科大学生として、また、医学生としての誇りを持っていただきたいと思います。医学生に対しては社会からの期待が大きいという自覚を持って、それに見合った勉強と立ち居振る舞いをすることが求められています。本学には病院がありますので大勢の患者さんが来られます。その方たちが諸君の服装、言動を注意して見聞きしておられます。その事をわきまえて行動していただき、患者さんを失望させることの無いようにしてください。

諸君がこれからの6年間を有意義に過ごされ、立派に成長されることを願っております。
最後にもう一度ご入学おめでとう。

第103回医師国家試験の結果と今後の方向性について

教務部長　野口　光一

平成21年2月14―16日に施行されました、第103回医師国家試験の合格発表が、3月27日に行われました。全国での受験者数、合格者数、合格率と本学出身者のデータを表1に示します。

【表1　第103回医師国家試験の結果（括弧内は前回比）】

	受験者数	合格者数	合格率
総合計	8,428（-107）	7,668（-65）	91.0（+0.4）
うち新卒	7,629（+110）	7,234（+113）	94.8（+0.4）
兵庫医科大学	119（+14）	115（+27）	96.6（+12.8）
うち新卒	104（+19）	104（+30）	100（+12.9）

合格基準は、①一般問題63.1%以上、②臨床実地問題64.3%以上、③必修問題80%以上、④禁忌枝問題選択2問以下の4条件を満たすことであり、採点除外等の取扱いの問題が12問ありました。①②に関しては従来通り相対基準（偏差値35）で決めていると思われます。さて、今回の医師国家試験の成績は本学開学以来の好成績でありました。受験者119名中115名合格（新卒104名全員合格）で、合格率の順位では全国私立大学医学部／私立医科大学29校中5位（新卒では1位）となりました。これは新卒生が本当によく頑張った結果であり、心より彼らの努力を称えたいと思います。本当に素晴らしい頑張りでした。また、昨年卒業しながら残念ながら不合格であった既卒生も、受験した10名全員合格しました。この素晴らしい結果をもたらした彼らの1年間の努力にエールを贈りたいと思います。

この数年にわたり改善してきた本学の国試対策が、ようやく目に見える成果をあげてきたとも言えるかもしれません。医学教育センターの鈴木主任教授、成瀬准教授、塩澤客員教授のご努力には本当に頭がさがります。今回からの新しい試みもありました。こうしたサポート体制の充実がひとりのミスも出さないという奇跡的な結果を生んだ一因かもしれません。ただ、新卒の合格者実数が29校中5位と誇れる数字ではありますが、やはり6年生の卒業保留者をいかに減らしていくかが最大の課題であります。今年から厚生労働省は国家試験の合格発表時に出願者数を同時に発表してきました。その結果、卒業保留生の数がすぐわかるようになっています。これを見越して卒業判定を国家試験出願〆切前に終了させた大学もあるようです。

本学が進むべき方向は、国家試験の好成績をキープしつつ、出来るだけ多くの本学学生を医師にしていくか、であると考えます。これは短期間ですぐに達成出来る課題ではありませんが、5年10年後には全員卒業全員合格を目指せるよう、あらゆる努力をしていきたいと思っています。そのためには、低学年から規則正しい勉強の習慣を獲得し、基礎的知識をきちんと身につけた上で5,6年次へ進級するということが絶対条件です。そして合理的な教育内容と試験システム、さらに緩みのない進級判定が重要です。

教務委員会では全学年のカリキュラム・進級判定システムの見直しを進めており、当分は手を入れる必要の無い完成度の高いものにしていきたいと考えています。しかしながら、要求度を高めるだけ、厳しいだけといったカリキュラム・進級判定では、学生の満足度、愛校心・帰属意識の涵養、受験生から見た本学の魅力、人間性にすぐれた医療人の育成といった観点からは問題が生じます。確かに猫の目にように変わる文部科学省、厚生労働省の医学教育／研修医行政に的確に対応していくのは大事ではありますが、本学学生・保護者・卒業生・教職員・地域住民等の期待に応じた本学の医学教育理念は揺るぎないものであるはずです。その基本理念に則って、教育カリキュラム・試験／進級判定システムの構築・改善、そして教職員の医学教育に対する意識改革・教育内容の向上を目指したいと思います。こうした改革が、本学学生、卒業生、教職員の本学に対する誇りを高める一助になるよう、あらゆる観点からの意見を拝聴しバランスの取れた改革を、しかも積極的に行っていく所存ですが、何より本学構成員の皆様の御協力が不可欠です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

6年次カリキュラムは全国的にみても手厚いものとなっておりますが、今年度はさらに従来の反省点を踏まえ、より効率的な学習支援を行いたいと思います。医学教育センターを中心として低学年での成績不良者への効率的な学習支援、6年次での臓器別対策、補習講義、臓器別模擬試験、成績下位グループや前年度留年者への重点的指導等を行う予定です。同時に卒業判定は厳格に行う予定ですので、現6年生の皆さんにはより一層の奮闘を期待します。

平成21年度大学院医学研究科入学式

4月2日(木)午前10時から9―2講義室において平成21年度大学院医学研究科入学式が挙行され、41名(うち36名が夜間履修学生)が入学しました。

専攻	分野	授業科目名	人数	夜間履修者の有無
医科学専攻	器官・代謝制御系	循環器病学(増山主任教授)	5(1)	有
		上部消化管疾患学	2	有
		下部消化管疾患学	2	有
		肝胆膵内科学	1	有
		内分泌代謝学	1(1)	有
		糖尿病学	1(1)	有
		腎臓病学	1	有
		肝胆膵外科学	2(1)	有
		下部消化管外科学	2	有
	高次神経制御系	心臓血管外科学	1	有
		呼吸器外科学	1(1)	有
		口腔科学	3(2)	有
		総合診療内科学	1	無
		地域総合医療学	1	有
医科学専攻	生体応答制御系	神経内科学	1(1)	有
		整形外科学	2	有
		麻酔科学	1(1)	有
		リハビリテーション科学	1	有
	生体再生制御系	免疫学	1(1)	有
		感染制御学(竹末主任教授)	1(1)	有
		救急集中治療医学(小谷主任教授)	1	有
		救急集中治療医学(西主任教授)	1	有
		医学物理学	1	有
		臨床腫瘍薬剤制御学	4(2)	有
	環境病態制御系	公衆衛生学	1	有
		医療情報学	1	有
先端医学専攻	分子病態制御系	造血幹細胞学	1(1)	無
合　計			41(14)名	

( ): 女子内数

学位の授与

内科系　**山本　晃久**　甲第517号(平成20年3月31日)

Involvement of hepatoma-derived growth factor in the growth inhibition of hepatocellular carcinoma cells by vitamin K2
(ビタミンK2による肝癌細胞の増殖抑制におけるHDGFの関与)

内科系　**佐藤　典子**　甲第518号(平成20年3月31日)

IDE gene polymorphism influences on BPSD in mild dementia of Alzheimer 's type
(軽度アルツハイマー型認知症の行動・心理症状とインスリン分解酵素遺伝子多型の関連)

器官・代謝制御系　**山田　昌代**　甲第519号(平成21年3月12日)

The proteomic profile of pancreatic cancer cell lines corresponding to carcinogenesis and metastasis
(プロテオーム解析による膵臓癌の発生および転移に関わるタンパク質の網羅的同定)

外科系　**安井　大雅**　甲第520号(平成20年3月31日)

比例補助換気(PAV)のための換気力学的コンピュータシミュレーションモデルの開発

生理系　**笹原　祐介**　甲第521号(平成20年3月31日)

Human keratinocytes derived from the bulge region of hair follicles are refractory to differentiation
(毛包バルジ領域に由来するヒトケラチノサイトは分化に抵抗性である)

外科系　**佐竹(渡辺)　佳菜子**　甲第522号(平成21年3月31日)

The NMDA receptor NR2A subunit regulates proliferation of MKN45 human gastric cancer cells
(NMDA受容体NR2Aサブユニットはヒト胃がん細胞MKN45の増殖を調整する)

外科系　**Calongos Luque, Giannina Hortencia**　甲第523号(平成21年3月31日)

Comparison of urinary and recombinant follicle-stimulating hormone in in vitro growth, maturation, and fertilization of mouse preantral follicles
(in-vitro培養法を用いてマウス卵胞発育と卵母成熟・受精におけるurinary FSHとrecombinant FSH の作用の比較)

外科系　**頭司　雄介**　甲第524号(平成21年3月31日)

Relations among expression of CXCR4, histological patterns, and metastatic potential in adenoid cystic carcinoma of the head and neck
(頭頸部腺様嚢胞癌におけるケモカインレセプターCXCR4発現と病理組織型、転移能の関連性)

内科系　**橋本　佳代**　甲第525号(平成21年3月31日)

Oxidative stress induces gastric epithelial permeability through claudin-3
(claudin-3を介した胃粘膜上皮透過性への酸化ストレスによる影響)

内科系　**上小鶴　孝二**　甲第526号(平成21年3月31日)

The Expression Profile of the Functional Regulatory T cells, $CD4^{+}CD25^{High+}$/$FOXP3^{+}$in Patients with Ulcerative Colitis During Active and Quiescent Disease
(急性期潰瘍性大腸炎患者の病勢変化における末梢免疫制御性T細胞発現の推移)

内科系　**石川　千香**　甲第527号(平成21年3月31日)

Tetracyclines modulate protease-activated receptor 2-mediated proinflammatory reactions in epidermal keratinocytes
(テトラサイクリンは表皮角化細胞におけるプロテアーゼ活性化受容体を介する炎症誘発反応を調整する)

外科系　**田上　雄一**　甲第528号(平成21年3月31日)

Axonal regeneration induced by repetitive electrical stimulation in the crushed optic nerve of adult rats
(成熟ラットを用いた視神経挫滅モデルにおける頻回電気刺激による軸索再生効果)

外科系　**美内　慎也**　甲第529号(平成21年3月31日)

Taste disturbance after stapes surgery - clinical and experimental study-
(アブミ骨手術後の味覚障害に関する臨床的基礎的研究)

放射線医学　**山本　聡**　乙第311号(平成21年2月5日)

Transcatheter coil embolization of splenic artery aneurysm
(脾動脈瘤に対する経カテーテルコイル塞栓術)

生体情報学　**安田　嘉之**　乙第312号(平成21年3月12日)

Extracellular adenosine induces apoptosis in Caco-2 human colonic cancer cells by activating caspase-9/-3 via A2a adenosine receptors
(細胞外アデノシンはアデノシンA2a受容体を介してカスパーゼ9/3を活性化することによりCaco-2ヒト大腸癌細胞アポトーシスを誘導する)

白衣授与式が行われました

平成21年4月5日（土）、3−3講義室において新5年生を対象に白衣授与式が行われました。厳かな雰囲気の中、兵庫医科大学の校章と各自の名前を刺繍した白衣を臨床に携わる教授の方々から授与され、固い握手を交わし激励を受けました。「ヒポクラテスの誓い」を唱和し、保護者の方々へ感謝の意を表しました。学生たちはStudent Dr.として臨床実習を前に、気持ちを新たにしました。

白衣授与式は米国でも広く行われており、昨年に引き続き、米国Arnold.P.Gold財団の助成を得て開催しました。

先生方から白衣を羽織ってもらい、握手を交わす

学生の感想

- 緊張感もありましたが、和やかでアットホームな雰囲気の中、お世話になった先生方に手渡していただき心に残りました。
- 白衣の重みを感じ、新たな気持ちで臨床実習を頑張ろうと思います。
- 「ヒポクラテスの誓い」の唱和では、一つひとつの言葉をかみ締めて読むことができました。これから臨床実習に臨むにあたり、心に常に留めたいと思います。

薬物乱用防止に係る特別講義を実施

平成21年5月2日（土）平成記念会館において、1年次から6年次までの全学生に対して、覚せい剤や大麻などの薬物が身体に及ぼす影響や薬物依存の怖さなどについて講義を行いました。

この特別講義は、全国で広がる薬物問題を受けて本学で初めて企画し、全学生の出席を義務付けました。薬物依存の恐ろしさと、医学生として身につけておくべきことが盛り込まれた内容に、学生たちは真剣に耳を傾けていました。

3年次の助永（すけなが）　匡比古（ただひこ）さんは、「薬物依存の怖さは薬理学の授業で学習してきたので専門的な内容も十分に理解できましたが、法律的な知識は不足していたので大変有益でした。今後医師になった時、薬物の危険性を患者さんにどのように伝えるかが重要になってくると思います。」と感想を述べていました。

『大麻の薬理作用』	竹村 基彦	主任教授（薬理学）
『法医学から見た薬物乱用』	木下 博之	非常勤講師（法医学）
『薬物乱用と依存』	守田 嘉男	主任教授（精神科神経科学）

本学の特許が初めて登録されました

岡村主任教授等による発明が平成21年3月27日をもって特許登録されました。

本学では開学以来、活発な研究活動が行われ、その過程、結果において多くの発明が生まれ、特許出願がなされてまいりましたが、平成18年度までは発明規程が整備されていなかったことから、研究者個人が出願等を行っておりました。ようやく平成19年4月に発明規程が施行され、本学での職務発明は原則として本学が承継し、大学名義で出願等を行うことになり、以降出願の実績を重ねてまいりました。このたび昨年7月に特許出願した本学単独の発明が、初の本学名義の特許として登録されました。

今、大学には、教育、研究に加え社会貢献が求められています。産業界を通じて大学の知的財産（シーズ）を社会に還元することは、その社会貢献の一つの手段です。本学にあっては、ますますの研究活動の推進とそれに伴う研究成果の社会への還元を図ります。

【大学名義の特許】

（件）

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
出願件数	0	4	7
登録件数	0	0	1

【登録特許概要】

発明の名称：Vγ9Vδ2T細胞の増殖剤、活性化Vγ9Vδ2T細胞の製造方法 およびこれらの利用
特 許 番 号：第4281071号
発 明 者 ：岡村 春樹、久保 秀司、李 文

平成21年度科学研究費補助金交付決定

平成21年度科学研究費補助金（92件 総額248,400千円（うち直接経費199,200千円、間接経費49,200千円））の交付が下記のとおり決定しました。
なお、昨年度末での実績は106件 総額273,012千円（うち直接経費219,540千円、間接経費53,472千円）でした。

（単位:千円）

所属部局	研究代表者	研究課題名	交付決定額 直接経費	交付決定額 間接経費
基盤研究（A）				
先端研（生体防御部門）	関山　敦夫	精神・免疫・内分泌系の統合的制御～ストレス特異的サイトカインカスケードの解明	5,800	1,740
基盤研究（B）				
解剖学（神経科学部門）	野口　光一	神経障害性疼痛発症の分子メカニズム	4,200	1,260
外科学（肝・胆・膵外科）	藤元　治朗	消化管癒着・線維形成過程の分子機構解析・制御法開発と腸管星細胞探索の試み	4,100	1,230
病原微生物学	筒井 ひろ子	ヘリコバクター・ピロリの慢性感染に与る宿主・病原体関係の解析	5,100	1,530
免疫学・医動物学	中西　憲司	好塩基球によるTh2誘導機構とアレルギー慢性化の解析	4,400	1,320
公衆衛生学	島　正之	日本と中国における自動車排出ガスの健康影響の国際比較に関する疫学研究	4,400	1,320
呼吸器外科学	田中　文啓	肺癌における循環血液中腫瘍細胞と血管内皮細胞の臨床的・探索的検討	5,900	1,770
脳神経外科学	泉本　修一	悪性ｸﾞﾘｵｰﾏにおけるWT1免疫療法・化学療法併用新規集学的治療法の開発	4,500	1,350
超音波センター	飯島　尋子	超音波医学を駆使した慢性肝炎および非アルコール性脂肪性肝炎の非侵襲的診断法の開発	7,600	2,280
環境予防医学	若林　一郎	高齢者における飲酒習慣と動脈硬化性疾患のリスクとの関連性に関する疫学研究	7,600	2,280
免疫学・医動物学	善本　知広	好塩基球によるTh2細胞の誘導とアレルギー病態形成に関する研究	5,700	1,710
歯科口腔外科学	浦出　雅裕	口腔癌幹細胞の分離・同定と癌幹細胞特異的治療法の開発	7,300	2,190
基盤研究（C）				
生化学	藤原　範子	新規酸化SOD1特異抗体を用いたALS発症機構の解明	1,100	330
整形外科学	吉矢　晋一	膝関節3次元動作解析システムの確立と前十字靭帯損傷膝に対する応用	100	30
病理学（病院病理部門）	廣田　誠一	消化管間質腫瘍の分子標的薬に対する耐性機序の解明	900	270
病理学（病院病理部門）	磯崎　耕次	KIT遺伝子改変動物を用いた消化管運動ペースメーカー細胞に発現する分子の解析	900	270
麻酔科学	下出　典子	揮発性麻酔薬のﾋﾄ胎盤移行性と他剤の移行性への影響	1,000	300
歯科口腔外科学	野口　一馬	正常唾液腺培養細胞の維持と放射線照射唾液腺への移植による唾液腺再生の試み	900	270
病理学（機能病理部門）	中正　恵二	歯周炎が脂肪性肝炎の発症と進行に及ぼす負の影響に関する研究	1,100	330
生理学（生体機能部門）	越久　仁敬	中枢呼吸リズム生成機構の発達過程の解明	700	210
生化学	鈴木敬一郎	腎疾患における酸化ストレスの関与と抗酸化代償機構の解明	1,200	360
病理学（分子病理部門）	西上　隆之	炎症性腸疾患に合併するがんの早期診断法の開発:粘液形質の解析	1,000	300
病理学（分子病理部門）	辻村　亨	悪性中皮腫の早期診断法の開発:分泌型および膜結合型蛋白質の網羅的解析	600	180
病理学（機能病理部門）	山田　直子	IL−18誘導性腫瘍細胞遊走抑制因子の同定と遊走抑制機構の解明	1,200	360
遺伝学	玉置　知子	悪性中皮腫発生抑制にかかわる遺伝子多型の検索	1,100	330
内科学（下部消化管科）	松本　譽之	炎症性腸疾患の発癌サーベイランスにおける腸管免疫異常と慢性炎症の意義	1,000	300
がんセンター	藤盛　好啓	悪性胸膜中皮腫の細胞・分子生物学的解析と癌幹細胞の同定	1,100	330
内科学（呼吸器・RCU科）	田端　千春	肺線維症の予防および治療方法の新規開発	1,400	420
内科学（糖尿病科）	宮川潤一郎	GLP-1産生L細胞の分化・増殖機構の解明とそれに基づく新規糖尿病治療法の開発	1,300	390
皮膚科学	山西　清文	トランスグルタミナーゼの新規酵素活性に基づく角化の分子病態解析	1,400	420
外科学（肝・胆・膵外科）	鈴村　和大	アルギニンの惹起する細胞内シグナル伝達の研究と肝再生促進療法への研究アプローチ	1,000	300
外科学（上部消化管外科）	笹子三津留	胃癌発癌機構の臨床的解析	1,000	300
外科学（肝・胆・膵外科）	宇山　直樹	肝内胆管癌組織に発現する細胞外マトリックスの機能解析とその臨床応用	1,400	420
外科学（肝・胆・膵外科）	佐竹　真	ヒト膵臓癌におけるシーエックスシーケモカインの検討（予後・背景因子・分化度）	900	270
呼吸器外科学	奥村　好邦	肺癌手術中の循環血液中への腫瘍細胞遊離放出と術後遠隔転移再発の解析	1,200	360
麻酔科学	多田羅恒雄	低分子量代用血漿製剤による手術時サードスペースの軽減	800	240
先端研（細胞遺伝子治療部門）	寺尾　秀治	膀胱癌に対する制限増殖型アデノウイルスベクターを用いた新規治療法の開発	1,300	390
病理学（機能病理部門）	大山　秀樹	HLA分子から刺激を受けた非血球系細胞は歯周病巣における体液性免疫優位に関与する	1,100	330
外科学（肝・胆・膵外科）	濱田　哲宏	オンコスタチンM遺伝子治療による腸管の繊維性癒着の克服	700	210
病理学（機能病理部門）	小越菜保子	新規サイトカインIL-35の歯周病態への関与とその治療応用に関する基礎的研究	1,100	330
先端研（神経再生研究部門）	松山　知弘	脳梗塞に対する細胞治療が幹細胞ニッチにおよぼす影響の検討	1,200	360
生理学（生体機能部門）	荒田　晶子	発声−呼吸モードｽｲｯﾁﾝｸﾞにおける神経機構の解明	1,600	480
病理学（分子病理部門）	鳥井　郁子	アレルギー性腸疾患の制圧に向けた免疫寛容機構の解明:制御分子とその産生細胞の同定	1,500	450
生物学	柏村信一郎	感染性ショックの誘導に関わるサイトカイン及び遺伝子の多項目解析	1,600	480
内科学（上部消化管科）	田中　淳二	ラット胃伸展刺激に伴う内臓痛とTRPA1チャネル活性化との関連	1,500	450

（単位:千円）

所属部局	研究代表者	研究課題名	交付決定額 直接経費	交付決定額 間接経費
内科学（上部消化管科）	三輪　洋人	腹部症状発現の分子メカニズムの解明―神経炎症と粘膜透過症の食道症状への関わり―	1,600	480
内科学（肝・胆・膵科）	中村　秀次	肝癌由来増殖因子の発現制御およびシグナル伝達調節による肝癌増殖制御法の開発	1,600	480
内科学（循環器内科）	辻野　健	メタボリックシンドロームにおける鉄代謝異常の機序とそれに基づく新規治療法の開発	1,500	450
内科学（腎・透析科）	野々口博史	糖尿病性腎症における抗利尿ホルモンV1a型受容体の役割と新たな治療法開発	1,200	360
内科学（血液内科）	小川　啓恭	ヒト白血球抗原半合致造血幹細胞移植療法の安全性確立に向けての研究	1,500	450
皮膚科学	樽谷　勝仁	モデルマウスを用いた乾癬の病態解明及び治療薬の開発	1,300	390
放射線医学	石蔵　礼一	新生児の脳発達に伴う脳回及び容積の測定と虚血性脳疾患での評価	2,700	810
放射線医学	上紺屋憲彦	放射線直腸粘膜障害に対する予防と治療―直腸挿入亜鉛製剤の設計と評価―	2,400	720
外科学（肝・胆・膵外科）	王　孔志	転写因子NF-kB抑制による大腸癌放射線感受性増強効果と非癌部腸管保護作用の検討	1,500	450
外科学（肝・胆・膵外科）	平野　公通	胆嚢細胞癌に対する新生血管・リンパ管および腫瘍内間質を標的とした分子治療研究	1,100	330
整形外科学	橘　俊哉	坐骨神経痛発現メカニズムにおける脊髄グリア細胞活性化の寄与	1,500	450
中央手術部	上農　喜朗	麻酔薬相互作用の神経ネットワーク並行回路近似による解析	700	210
歯科口腔外科学	長谷川誠実	歯痛の情動記憶メカニズムの解明	1,800	540
歯科口腔外科学	高岡　一樹	腺様嚢胞癌血行性転移機構における一酸化窒素合成酵素の関与と転移抑制の検討	1,100	330
解剖学（神経科学部門）	福岡　哲男	GDNFの神経因性疼痛に対する鎮痛メカニズムの解明;Nav.Kvとの関連	1,600	480
麻酔科学	神原　政仁	末梢神経損傷後のニューロパチックペインとサイトカインネットワークの関連	1,600	480
挑戦的萌芽研究				
医学教育学	成瀬　均	医師養成における卒前・卒後に連携した新たな臨床能力試験の構築	1,000	0
内科学（腎・透析科）	中西　健	ペルフルオロブタン微小気泡を用いた腎内血流分布の解析	400	0
解剖学（神経科学部門）	野口　光一	脊髄グリア細胞でのtPA発現を介した脊髄根損傷モデル特異的疼痛メカニズムの証明	1,700	0
救急・災害医学	小谷　穣治	魚油の静脈投与による侵襲下好中球アポトーシス抑制の解除と組織障害軽減の研究	1,500	0
若手研究（スタートアップ）				
解剖学（神経科学部門）	三好　歓	IL-18を介したミクログリア―アストロサイト相互作用と神経因性疼痛	1,200	360
特定領域研究				
病理学（病院病理部門）	廣田　誠一	GIST発生におけるKIT・PDGFRシグナル異常の解析	9,400	0
免疫学・医動物学	中西　憲司	寄生虫感染と宿主応答	18,200	0
解剖学（神経科学部門）	野口　光一	神経栄養因子によるペインセンサーTRPA1の機能調節機構	3,000	0
若手研究（B）				
解剖学（神経科学部門）	山中　博樹	神経因性疼痛における新規細胞間接着因子CHL1の役割	1,400	420
病原微生物学	内山　良介	宿主細胞カスパーゼ活性の制御を介した結核菌のマクロファージ内生存の分子機構	1,500	450
免疫学・医動物学	中平　雅清	Super Th1細胞誘導の分子機構	1,300	390
法医学	内海　美紀	覚せい剤誘導性ドパミン増加に対するエタノールの作用とアルコール嗜好性の関与	1,800	540
内科学（循環器内科）	内藤　由朗	心不全合併貧血に対する治療戦略の確立	1,500	450
環境予防医学	中野　知之	血管におけるジアシルグリセロールキナーゼのTRPチャネル分子制御機構の解明	1,300	390
内科学（ﾘｳﾏﾁ・膠原病科）	常見　幸	FTY720の投与によるSKGマウスにおけるTregへの影響と関節炎抑制効果	1,400	420
皮膚科学	中川　登	プロテアーゼ活性化受容体を介する表皮制御システムの分子病理学的解析	900	270
皮膚科学	津田　達也	炎症性皮膚疾患における新規血液RNA診断システムの開発	1,600	480
麻酔科学	植木　隆介	局所麻酔薬の胎盤移行に対する蛋白結合および母児アシドーシスの影響	1,000	300
形成外科学	蔭山　晶子	創傷治癒過程におけるAdiponectin,Calreticulinの役割	1,000	300
歯科口腔外科学	田中　徳昭	腺様嚢胞癌の浸潤機構におけるMMPsおよび増殖因子の関与	1,700	510
歯科口腔外科学	阿部　徹也	三叉神経損傷動物を用いた三叉神経痛の発症機構の解明	1,400	420
先端研（神経再生研究部門）	中込　隆之	血管ニッチの有無による脳傷害誘導性神経幹細胞の移植効果の検討	1,200	360
解剖学（神経科学部門）	小畑　浩一	神経因性疼痛発症におけるToll-like receptorシグナル伝達の役割	1,900	570
生化学	崎山　晴彦	糖尿病病態下における転写因子ChREBPの新規活性化機構の解明	1,700	510
物理学	福田　昭	2層系分数量子ホール状態における巨視的量子コヒーレンスの検証	1,800	540
生理学（生体機能部門）	平田　豊	化学性呼吸調節機構の分子基盤の解明	1,800	540
薬理学	北中　順惠	豊かな生活環境が及ぼすメタンフェタミン依存に対する影響と薬物依存治療の可能性	2,200	660
生理学（生体機能）	岡部　明仁	周産期呼吸リズム調節とCl―ホメオスタシス:乳幼児突然死症候群の中枢性要因の探索	2,100	630
外科学（肝・胆・膵外科）	小坂　久	腹腔内癒着形成メカニズムの解明及び、その制御に基づく癒着予防法の確立	1,900	570
耳鼻咽喉科学	桂　弘和	膝神経節におけるTRP受容体ファミリーの機能解析	1,500	450
病理学（機能病理部門）	山根木康嗣	ヒストン脱アセチル化阻害剤を用いたヒト骨肉腫に対する免疫療法への応用	1,700	510

平成21年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

（単位:千円）

研究事業名	研究代表者	研究課題名	交付額
がん臨床研究事業	笹子　三津留（外科学（上部消化管外科））	進行胃がんの生存率を向上させる標準的治療法の開発に関する研究	21,000
がん研究助成金	福田　能啓（地域総合医療学）	ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌の修飾因子に基づく予防策の検討	11,750
肝炎等克服緊急対策研究事業	西口　修平（内科学（肝・胆・膵科））	血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎及び臨床的研究	24,000（うち間接経費4,000）

平成21年度科学研究費補助金（奨励研究）交付決定

（単位:千円）

所属	研究代表者	役職	研究課題名	交付額
研究技術第1課	足立　伸行	技術員	親水性有機リン系農薬アセフェートおよびメタミドホスの体内動態と毒性の検討	580
皮膚科学	小西　弘江	実験補助	毛根を用いた先天性皮膚疾患の遺伝子解析法の開発	590
呼吸器外科学	米田　和恵	実験補助	悪性胸膜中皮腫における末梢血液中の循環中皮腫細胞の検出	560
リハビリテーション部	笹沼　直樹	理学療法士	インターバルトレーニングにおける回復期運動負荷量が心臓自律神経活性に及ぼす影響	550

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況（H20.7～H21.5）

（単位:千円）

助成団体名	研究者	研究課題名	交付額
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	越久　仁敬（生理学（生体機能部門））	膜電位イメージング情報からの機能的神経回路網の再構築	90
日本医師会	善本　知広（免疫学・医動物学）	術後腸管癒着の免疫学的発症機序の解析と制御法の開発	1,500
（財）千代田健康開発事業団	福岡　和也（内科学（呼吸器・RCU科））	アスベスト曝露と胸部悪性腫瘍を含む、がん発症リスクとの関連性についての前向き調査研究	1,000
（財）がん研究振興財団	笹子三津留（外科学（上部消化管外科））	胃がん治療の国際的標準化	4,000
（財）ノバルティス科学振興財団	善本　知広（免疫学・医動物学）	HGFを用いた術後腸管癒着の予防	1,000
（財）中谷電子計測技術振興財団	飯室　勇二（外科学（肝・胆・膵外科））	流体シミュレーションとドップラーエコーからの肝循環圧測定法の開発	1,000
（財）兵庫県健康財団	松田　育雄（病理学（病院病理学））	ヒト病理組織と遺伝子操作マウスを用いた、ヒト前立腺癌のホルモン療法抵抗性の予測法の開発	400
（財）ひょうご科学技術協会	野口　光一（解剖学（神経科学部門））	内臓痛の分子メカニズムとTRPA1チャネル活性化の関与	2,000
（財）ひょうご科学技術協会	善本　知広（免疫学・医動物学）	術後腸管癒着に対する治療的戦略	2,000
（財）ひょうご科学技術協会	中込　隆之（先端研・神経再生研究部門）	脳傷害誘導性神経幹細胞による脳梗塞後の移植効果の検討	980
（財）ひょうご科学技術協会	増宮　晴子（生理学（生体機能部門））	心臓血管中枢のN型Caチャネルによる血圧調節機序の解明	1,000
（財）ひょうご科学技術協会	崎山　晴彦（生化学）	生活習慣病病態下における転写因子ChREBPの活性化機構の解明	990

平成21年度大学院学生研究助成交付決定

（単位:千円）

番号	専攻	学年	氏名	研究課題名	助成金 配分額
1	先端医学専攻 分子再生医学系 神経再生医学	3	斉野　織恵	免疫不全が脳梗塞後の組織損傷と修復に与える影響の検討	850
2	医科学専攻 器官・代謝制御系 腎臓病学	3	北村　理恵	腹膜透析療法での腹膜中皮細胞障害における細胞内鉄輸送障害の関与	850
3	医科学専攻 器官・代謝制御系 口腔科学	3	廣本　孝史	HPV16E6およびE7遺伝子発現による正常舌ケラチノサイトの不死化とがん化およびNGAL（好中球ゼラチナーゼ結合リポカリン蛋白）の発現について	700
4	先端医学専攻 分子再生医学系 神経再生医学	3	土居　亜紀子	脳梗塞治療としての骨髄単核球投与が神経幹細胞ニッチにおよぼす影響の検討	700
5	医科学専攻 器官・代謝制御系 下部消化管疾患学	3	加藤　恭一	末梢顆粒球吸着療法に温熱療法を加えた新しい固形癌治療の基礎検討	700

花粉症が悪くなる根本原因は好塩基球の仕業である

免疫学・医動物学　准教授　善本　知広
主任教授　中西　憲司

善本　知広准教授

中西　憲司主任教授

春先の花粉は春よりも先に花粉症を運んできます。生命の営みと分かってはいましても、花粉症の患者（私、中西は患者です）にとっては、花粉は厄介な代物です。花粉症を簡単に御説明しますと、花粉症の患者では花粉のパートナー(ここではIgE抗体のこと。受粉のパートナーではありません)が体の中に沢山作られていまして、肥満細胞や好塩基球に結合してじっと花粉の到来を待っています。そこに花粉がやってきますと、たちまちこれらのパートナーは花粉と一緒になって、細胞の上で一斉にダンスを始めます。ギシギシと言う音で驚いた肥満細胞と好塩基球は、すかさず「クシャミのもと」、「鼻水のもと」、あるいは「かゆみのもと」を、大量に放出します。その結果、花粉症患者はテッシュのお世話になり、目薬のお世話になり、またマスクのお世話になり、遂には薬のお世話になります。やがて花粉の季節が過ぎ去りますと、好塩基球と肥満細胞は物静かな細胞にもどります。そして、患者達はホッと胸を撫で下ろしますが、悲しいことに爽やかな春は半ば以上過ぎ去っています。

リンパ球はT細胞とB細胞、二種類存在します。B細胞は抗体と呼ばれる防御分子を作って細菌やウイルスの感染から私達を守ってくれます。一方、T細胞は免疫系の司令塔に位置づけられ、B細胞に指示を出して抗体を作らせます。T細胞には「IFN-γ」という指示を出すTH1細胞と、「IL-4」という指示を出すTH2細胞が存在します。IFN-γで指示されたB細胞はIgG抗体を作って細菌を排除します。一方、IL-4で指示されたB細胞はIgE抗体を産生してアレルギー疾患を誘導します。これまでの研究から共通の細胞（前駆細胞）がTH1あるいはTH2細胞になることが明らかとなっております。この共通の細胞はナイーブT細胞とも呼ばれます。ここまで書けばお分かりになる方もおられると思いますが、ナイーブT細胞がTH2細胞にならない様にすることが出来れば、アレルギー症の発症は予防できます。しかし、その様な技術を開発するためには、まずその前にTH2細胞がどのようにして作られるかを知る必要があります。ところが、これまでの免疫学はこの疑問に答えてこなかったのです。私達はこの難問に世界で始めて答えることに成功しました。私達の答えは「TH2細胞が作られるのは、好塩基球と呼ばれる細胞の仕業である」というものです。私達が出したこの「答え」は、幸いNature Immunology（インパクト　ファクター: 26.2）と呼ばれる免疫学関係のジャーナルでナンバー1の雑誌に掲載されました。そして、研究成果の概要が読売新聞、毎日新聞、日本産業新聞などに掲載され、更に共同通信の手で津々浦々の新聞に記事が配信されました。概要は新聞記事に要領よくまとめられていますが、紙面の関係でカットされているところもありますので、以下に補足させていただきます。

好塩基球はこれまで様々な化学伝達物質を産生して、アレルギー性炎症を起こす細胞と考えられてきました。気管支喘息で喘鳴「ゼーゼー」が起こりますのも、蕁麻疹で皮膚のカユミが起こりますのも、その他さまざまなアレルギー症状が起こりますのも、好塩基球が原因と考えられてきました。ところが、私達はアレルゲンが侵入すると最初にこれを感知し、さらにその情報をナイーブT細胞に伝達するのは、好塩基球という白血球の一種であることを明らかにしました。そして、この様な情報を受けたナイーブT細胞がTH2細胞になることも明らかにしました。TH2細胞はアレルゲンに反応するB細胞を刺激して、アレルゲン反応性のIgE抗体を産生させます。これが、最初のIgE産生の波であります。ひとたび、IgE抗体が少量であっても作られるますと、侵入してきたアレルゲンはこのIgEと結合しまして、アレルゲン/IgE抗体複合体が形成されます。ここで好塩基球の大事な特徴を一つ述べます。この細胞はアレルゲン/IgE抗体複合体を結合する受容体を細胞表面に発現しています。従って、この特徴を生かすことで少量のアレルゲン/IgE抗体複合体を効率よく取り込むことが出来るわけです。次に、好塩基球はこのアレルゲン情報をT細胞に渡します。情報を受けたナイーブT細胞はTH2細胞となります。この様にしてTH2細胞の数は増加するわけです。その結果、アレルゲンに反応するB細胞はIL-4刺激を十分に受け、アレルゲン結合性のIgE抗体の産生を増大させます。これが第二波のIgE産生です。この様に、好塩基球はアレルゲン/IgE抗体複合体を感知してTH2細胞の数を増大させます。そしてこの増大に呼応して、B細胞からのIgE産生も増大されます。第三波のIgE産生です。IgE抗体産生の波は更に続きます。この様に、一度、IgE抗体が作られますと、好塩基球の手によってTH2細胞が拡大生産され、IgE産生は増加の一途を辿るようになります。

以上が、私達がこれまでに明らかにしたTH2細胞の作られ方の基本であります。これからは、好塩基球の機能をなくす技術等を開発して、花粉症等アレルギー疾患の治療法を、兵庫医科大学で確立したいと願っています。そのためには、優秀な人材が必要です。この文章を読まれた若いヒトの研究への参画を強く願うものであります。

（文責　中西　憲司主任教授）

病院長メッセージ

事業計画の早期着手と早期実現に向けて

病院長｜太城　力良

本年4月採用の新入職員の皆さんは、少しは本学病院の環境に慣れ、雰囲気に馴染んできた頃だと思います。仕事面においては、まだまだ覚えていかなければならないことが多々あろうかと思いますが、一日一日知識を蓄え技術を身につけて、兵庫医科大学病院にとって“ 大きな力 ”となってくれることを期待しています。

皆さんもご承知のとおり、医療機関を取り巻く環境は厳しく、医師・看護師不足、地域救急体制の崩壊など社会的問題が沸騰する中、大学病院にとっても試練の時を迎えています。このような状況であっても、本学病院は特定機能病院、急性期病院としての使命を果たすべく、病院の理念としている安全で質の高い医療を提供し、地域医療を通して地域社会に貢献していかなければなりません。これの実現に向けて、また病院の中期ビジョンを踏まえた計画や直面する課題の克服に対して、本学病院は毎年事業計画を策定し、この計画を達成し実効あるものとすることで、よりよい病院運営を目指しています。

新入職員の皆さんと時期を同じくして、私も2009年4月に病院長に就任し、早や2カ月が経過しました。この間、4月下旬に、新型インフルエンザによる感染が世界的に拡大し、5月中旬には兵庫県において、国内初の新型インフルエンザが発生・拡大し、本学病院においても教職員が協同してこの対応にあたっていますが、こうした不測の事態への対応（危機管理・安全体制の整備）も本学病院にとって重要な課題と位置付けています。本年度の病院の重点目標、事業計画は末尾に記していますが、先ず4月には、①効率的な病床運営を図るべく、「入退院管理室」の設置、②関係病院とのさらなる連携強化を目指し、「兵庫医科大学連携病院の会」の設立、③昨年からの課題であった、本学病院が我が国で最先端の診療を提供してきた炎症性腸疾患（IBD）を専門に扱う内科医、外科医が一カ所に集まって外来診療を行う「IBDセンター」のオープンを決定し、①、②は6月に実現に移し、③は5月11日にオープンしました。同じく4月に中央手術部内に暫定的に設置した眼科手術を専門に行う「アイセンター」も、11月には本格的な「アイセンター」としてオープンさせたいと考えています。次いで5月には、外来患者さんから苦情の多い外来診療の待ち時間について、これの短縮や採血室・外来化学療法室などの午前中の混雑の緩和などを目的に外来診療体制の見直しを含め、そのあり方を検討する「外来診療体制検討ワーキンググループ」を立ち上げ、10月には新外来診療体制の実現を目指したいと考えています。

また、毎年の課題となっている病床運営については、漸く昨年11月から稼働率がよくなり、平成20年11月～平成21年3月までの5カ月間、各科、各病棟の皆さんの頑張りもあって稼働率が例年になく高い数値を維持でき、その結果、平成20年度は平成19年度と比し大きく病院収支が改善しました。この状態を1年間継続して維持することができれば、まだまだ収支改善が図れるはずです。本年度のスタートとなる平成21年4月の稼働率は86.8%であり、5月はゴールデンウィークの関係等でなかなか稼働率が伸びませんが、本年度目標の89.8%の稼働率の早期達成に向けて、各科、各病棟の皆さんになお一層のご尽力をお願いするとともに、“ 稼働率90% ”は効率的な病床運営を実現するうえでの基準点（出発点）となる数値と考えますので、是非ともこの数値を上回る病床運営を心がけていただくようお願いします。

最後に、ここ数年の病院運営状況からみて、平成21年度は本学病院にとって本当に大切な1年となります。病院の健全な運営が学校法人兵庫医科大学の健全な運営に直結していることを常に意識していただき、この1年を実りあるものとしなければなりません。医師、看護師をはじめ各職種の皆さんが病院運営に積極的に参画し、皆さんの英知を結集し協同して事業の早期着手、早期実現に向け取り組んでいただくよう、切に希望する次第です。

重点目標	事業計画
○安全、安心で質の高い診療レベルの構築 ○良質な医療人・医療チームの育成 ○安定した経営基盤の確立 ○地域との連携強化	○目標患者数 ・入院1日817人 （稼働率89.8%、平均在院日数14.5日） ・外来1日2,233人 ○入退院管理室の設置 ○アイセンターの設置とそれに伴う手術室の強化 ○病院機能評価再受審の準備 ○治験センターの強化 ○経費削減への取り組み

IBDセンター開設
―関西地区のIBD診療の拠点病院として―

IBDセンター長
内科 下部消化管科 主任教授 | 松本　譽之

IBD（特発性炎症性腸疾患）にはUC（潰瘍性大腸炎）とCD（クローン病）の二つの疾患が含まれます。両疾患とも原因不明で再燃と寛解を繰り返す難治性疾患であり、生活様式の欧米化などに伴って本邦でも増加が著しい状態です。現在では、UCが約10万人、CDが約3万人の登録患者数であり、かつ比較的若年者に好発する（もちろん高齢の患者さんも増加しています）ため、学業や就職、家庭生活などに困難を来たし患者さんのQOL（生活の質）の低下が問題となっています。両疾患とも厚生労働省により特定疾患（いわゆる難病）に指定され、その治療法の開発や疾病の究明などが進められています。

また、厚生労働省特定疾患「難治性炎症性腸管障害調査研究班」（渡辺　守班長）を中心に作成された治療指針やガイドラインなどのIBDの標準治療の手引きが整備され、一般的なIBDへの治療環境はずいぶん整備されてきました。しかしながら、このような標準的治療に抵抗する難治例の患者さんも少なくありません。現在このような難治例に対しては、当院で開発された白血球除去療法の活用、抗サイトカイン療法による治療、栄養療法や栄養指導など、それぞれの患者さんの病状に応じた最新の治療と指導を行ってきました。また、内科治療だけで解決しない患者さんには、適切なタイミングでの外科治療を行ってきました。外科では、UCへの肛門温存手術のほか、CDにおける腸管狭窄や膿瘍などの合併症の手術、肛門部病変への手術などで良好な成績を上げています。

また、一方で関西地区を中心とする遠方の患者さんも少なくないことから、安定期には地域の病院や医院と連携して患者さんの治療に当たる病診連携・病病連携も重要で、現在力を入れている部分であります。

当院では、UC、CDともそれぞれ1000名以上の患者さんが通院されており、外科ではこれまでUCの手術例が1000例以上、CDが600例以上と関西地区での拠点病院として機能してきました。現在も日々多数の患者さんのご紹介を受け、それらの患者さんへの質の高い診療に努力しておりますが、本症の治療には内科と外科の協力、生活指導や栄養指導などコメディカルスタッフとの協力を強化したチーム医療が必須であり、この点の充実を目指したIBDセンターを開設することになりました。従来の消化器内科と下部消化管外科がチームとして協力しながら、当面は外来部門を中心に運営していく予定であります。

IBDセンターの機能と特徴

①IBDを専門とする内科と外科の専門医が毎日診療します。
②IBDへの最新治療を提供します。
③内科と外科の垣根を無くしスムーズな診療が可能になります。
④地域医療からの紹介予約やセカンドオピニオンに対応します。
⑤コメディカルスタッフによる栄養指導などが可能です。

私学事業団の人間ドック割引利用契約が締結されました

平成20年11月から1号館13階に開設されました健診センターでは、順調にドック受診者数を伸ばし、当初の予想を上回って多くの方々にお越しいただいております。

このたび、私学事業団の人間ドック割引利用契約が締結され、加入者（教職員）やその扶養家族の方々には、受診にかかった費用の60%（最高額3万円）の補助を私学事業団から受けることが出来るようになりました。

この割引は兵庫医科大学の教職員とその扶養家族のみではなく、他の私学にお勤めの教職員やその扶養家族の方々も同様の補助が受けられます。

概略は下記のとおりです。詳しくは私学共済ブック（6月発行）をご覧ください。

【対象者】
受診日において、満35歳以上の加入者と被扶養者
【利用回数】
年度内1回
【補助金】
消費税を除く利用料金の60%相当額（限度額3万円）

一般の受診者の基本料金は税込み49,350円ですが、私学事業団との契約料金は、基本料金の3%を値引きするため料金45,590円+消費税2,280円＝47,870円となります。この場合、補助金として45,590円×0.6＝27,354円が後日還付されます。

また、オプション検査を追加した場合、例えば基本セットに腫瘍マーカー（7,200円）をオプションで付加すると（45,590円+7,200円）×0.6＝31,674円となり、3万円を超えますので、補助金は3万円となります。

※補助を受けるには私学事業団人間ドック利用補助金請求書の提出が必要です。

認知症疾患医療センターについて

認知症疾患医療センター長
精神科神経科 主任教授 | 守田　嘉男

平成21年4月1日、兵庫県から認知症疾患医療センター（以下、本センター）の指定を受け、4月の病院部長会において運営委員会規程を審議承認していただきました。本センターは「兵庫県老人性痴呆疾患センター」の事業を引きつぎ、発展させることが目的となっています。母体の設立は平成元年7月、業務開始は平成2年2月からと長い伝統があります。はじめは兵庫県で唯一の「痴呆疾患センター」でしたが、その後10年計画が終了し、ひとまずその役割を果たして貴重な資料を残すこともできました。

【兵庫県老人性痴呆疾患センター業務統計（実人員）】

年齢	平成1年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	合計
-49	1	1	10	3	2	0	2	1	2	2	0	24
50-54	0	8	2	2	4	2	1	3	1	1	2	26
55-59	7	17	20	9	6	8	9	8	3	7	3	97
60-64	7	22	29	8	14	7	10	3	8	13	8	129
65-69	28	52	57	29	21	16	16	19	15	27	24	304
70-74	36	66	106	56	32	24	20	37	29	53	41	500
75-79	39	102	114	69	45	33	43	57	44	50	51	647
80-84	41	88	118	72	60	34	38	50	35	52	50	638
85-89	12	27	50	30	25	31	16	28	31	41	27	318
90-	8	18	15	12	8	8	2	5	10	12	19	117
不明	0	63	32	18	18	4	13	10	12	18	8	196
男	76	150	183	117	83	51	64	67	54	87	61	993
女	103	278	356	182	136	116	101	143	127	179	171	1892
不明	0	36	14	9	16	4	5	11	9	9	1	114
合計	179	464	553	308	235	171	170	221	190	275	233	2999

本センターは、平成2年から約20年間、途中の多くの困難を乗り越え今日まで事業を継続できましたが、これは兵庫県と兵庫医科大学の援助や医療社会福祉部、精神科神経科医局・外来・病棟スタッフおよび臨床心理部の無償の努力があったことによります。今後は本医療センターとして改めて地域での認知症対策へと活動の場を拡大することが期待されておりますので、関係各位にくれぐれもよろしくお願いする所存です。

認知症疾患医療センターの業務

① 認知症に関する相談であり、専門のワーカーが担当します。
② 認知症疾患の鑑別診断でこの確定には老年精神医学会や認知症学会の認定を受けた専門医が携わりますが、病院内各科へのコンサルテーションが欠かせないこととなります。
③ そして疾患が確定、例えばアルツハイマー型認知症（アルツハイマー病）としますと、治療介護の方針を立て、紹介医のフォローやサービス情報を家族に伝えることになります。
④ 啓蒙活動も重要で、西宮市と近隣の市町における講習会を開催したり、認知症研究の現状や最新の治療薬について知見の普及に努めます。

第1回兵庫医科大学病院病薬連携セミナー開催

地域医療・総合相談センター

平成21年4月18日（土）15時から3―1講義室において、第1回兵庫医科大学病院病薬連携セミナーを開催しました。地域の薬剤師会等との病薬連携を深めることを目的としたもので、近隣の薬剤師会の会員薬局等85名を含め、院内外から110名にご参加いただきました。

当院では、昨年12月より院外処方せんの全面発行に移行したことから、特殊な処方などについて保険薬局の皆さまにもご理解・ご協力をお願いし、連携を取っていくことが重要となります。今回は、「血友病とHIV感染症の治療」（内科 血液内科　日笠 聡 講師）と題して、特別講演を行いました。参加者から多くのご意見とご要望をいただき、活況なセミナーとなりました。

今後も病薬連携を一層深めるため継続して開催していく予定です。